

2021 年度  
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会



## 目 次

法人本部	4～8
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	8～12
津名デイサービスセンター	13～14
千鳥会居宅介護支援事業所	14～15
千鳥会在宅介護支援センター	15
家族介護教室・家族介護者交流事業	15～16
高齢者住宅等安心確保事業	16
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	17
ゆうらぎデイサービスセンター	17
ゆうらぎ訪問介護ステーション	18
養護老人ホーム 北淡荘	18
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	19
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	19
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	20
ちびっこランド ちどり	20
グループホーム しおさい	20～21
しおさいデイサービスセンター	21
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	21
佐野デイサービスセンター	21～22
千鳥会福祉用具貸与事業所	22

2021年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
理事会	2021年6月7日	千鳥会 法人本部	5/6	① 2020年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2020年度 社会福祉法人千鳥会 第二次補正予算の件 ③ 2020年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ④ 2020年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ⑤ 社会福祉充実残高の算定について ⑥ 次期役員候補者の評議員会への推薦 ⑦ 定時評議員会開催・議題について	佐藤俊彦	宮尾慶子 樽野敏郎
理事会	2021年6月21日	千鳥会 法人本部	6/6	① 理事長・業務執行理事の選任 ② 次期評議員選任・解任委員の選任 ③ 次期評議員候補者の評議員選任・解任委員会への推薦 ④ 新評議員選任・解任委員会開催日時等の決定	なし	宮尾慶子 樽野敏郎
評議員会	2021年6月21日	千鳥会 法人本部	6/7	① 2020年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2020年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ③ 2020年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ④ 社会福祉充実残高の算定について ⑤ 次期役員選任の件	井高孝一	宮尾慶子 樽野敏郎
理事会	2021年8月23日	千鳥会 法人本部	6/6	① 就業規則変更の件 ② 2022年度施設整備の件	なし	樽野敏郎
理事会	2021年12月20日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2021年度 社会福祉法人千鳥会 第一回補正予算の件 ② 2022年度施設整備の件	なし	宮尾慶子 樽野敏郎
理事会	2022年2月1日	千鳥会 法人本部	5/6	① 2022年度施設整備の件	佐藤俊彦	宮尾慶子 樽野敏郎
評議員会	2022年2月1日	千鳥会 法人本部	7/8	① 2022年度施設整備の件	仲野和美	宮尾慶子 樽野敏郎
理事会	2022年3月28日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2022年度社会福祉法人千鳥会 事業計画の件 ② 2022年度社会福祉法人千鳥会 予算の件 ③ 2022年度施設整備事業の件 ④ 非常用自家発電機導入の件	なし	宮尾慶子 樽野敏郎

2. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし				

### 3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目／実施場所	参加人数
職員福利厚生事業	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員親睦会（各事業所）	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員健康診断 （前期・後期）	2021年8月	ゆうらぎ・北淡荘・本部	99名
	2021年8月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	92名
	2021年8月	ほほえみ・ちびっこランドちどり	61名
	2022年1月	ほほえみ	21名
	2022年2月	ゴールド・しおさい・ぬくもり	34名
	2022年4月	ゆうらぎ・北淡荘	37名
職員腰痛検査 （前期・後期）	2021年8月	ほほえみ	45名
	2021年9月	ゆうらぎ・北淡荘	78名
	2021年9月～10月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	82名
	2022年1月	ほほえみ	47名
	2022年3月	ゆうらぎ・北淡荘	77名
	2022年3月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	82名
インフルエンザ 予防接種	2021年11月	全事業所	259名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

### 4. 入社式（入職者）・退職者

入社式	新入職員数
2021年4月1日	5名
2021年6月1日	0名
2021年8月2日	3名
2021年10月1日	5名
2021年12月1日	0名
2022年2月1日	3名
合計	16名

月	退職職員数
4月	1名
5月	3名
6月	1名
7月	3名
8月	3名
9月	4名
10月	1名
11月	3名
12月	2名
1月	3名
2月	3名
3月	6名
合計	33名

## 5. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	0名
育児休業	1名
短時間勤務	1名

## 6. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	5件
自己啓発支援	報奨金	実務者研修修了	7件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉主事	1件

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○	○					
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続ける為には介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める事も重要である事から、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。	○		○				
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修 (委託事業)	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○	○					
地域サポート型施設 (兵庫LSA又見守り活動)	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に24時間体制の見守り等を行う。	○	○	○				

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの（公的制度の給付対象となっていないもの）

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	
職場体験 (トライやるウィーク)	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○		○	○		
祭り地域交流	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待	○	○	○	○		○	

(春・夏・秋)	し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。								
各種ボランティア（慰問等）の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○	○
いきいき100歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき100歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。		○	○				○	
訪問サービス（介護保険外事業）	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○						
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○	○	○					
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサービス実施	○							
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託（無料）を受けて受講者にも無料で実施。	○		○					
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○					
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。								○
デイサービス（夕食サービス）	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。		○	○					
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目的に、三洋電気洲本工場OB団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、NPO法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1～2日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○	○	○					
ケアローン（介護相談窓口）	高齢化や健康意識の高まりを受け、社会の変化に対応した次世代コンビニモデルの構築に取り組む。通常のコンビニ機能に加え、ケアマネジャーなどの相談員が駐在する介護相談窓口や、地域の方の交流の場として活用できるサロンスペースも店内に併設している。	○	○	○					
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。	○	○	○					
日本財団自動販売機設置	飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付する。	○	○	○					
寄っていかんか千鳥	ご利用者が作った作品を、誰かが買ってくれることで、ご利用者に自身の価値・存在を感じ、認めてもらうために実施。また、その中で世代間交流や地域とのつながりを持ち、地域の方の集いの場所にする。	○							
中学校出前授業	介護の魅力、必要性、社会情勢等、介護の現場を知ってもらう目的として実施。	○	○	○					
高校福祉授業	福祉についての理解を深める為に、「認知症サポーター養成講座」等を実施。	○							

## 7. 情報公表サービス受審

### ■ サービス評価（淡路市提出日）

しおさい しおさいデイ	2022年4月1日
ぬくもり	コロナの為、次年度に延期
小規模ほほえみ	2022年2月18日

■ 指導監査

ゆうらぎ 北淡荘 ゆうらぎデイサービス ゆうらぎ訪問介護	2021年11月30日
千鳥会ゴールド	2021年12月14日

8. 総括

全世界で新型コロナウイルスの感染拡大が続き、国内においても感染症の患者が確認されてから2年が経過したが、現在も感染力の強い「オミクロン株」による感染拡大への対応などコロナとの闘いは続いています。

兵庫県の経営実態調査でも、事業所の利用者・家族からの希望によるサービスの利用控え、受け入れサービスの提供・縮小、更には事業所の休業等の影響が見られ、経営状況は大幅に悪化しています。また、利用者のADLや認知機能の低下、家族の介護負担の増加等に繋がっています。今後もこの状況の長期化が予測され、介護事業を安定的に継続し、利用者が望むサービス提供が課題となっています。

2022年度、新型コロナウイルス感染症対策を喫緊の課題として、引き続き施設職員・入所者等へのワクチン接種を含めた感染対策防止策の徹底を図ります。

又、事業が安定的に継続していくためにBCP計画を早期に策定し、利用者に必要なサービスを安定的・継続的に提供される体制を構築し、万が一事業所でクラスター等が発生した場合の応援スキーム等を活用するなど事業所運営を行っていく。

特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

<p><b>2021年度事業所総括</b></p> <p>(1) 特養部総括</p> <p>1-1. 利用者個々に起こりうる危険を認識し、原因究明・対策・予防処置を立案し、サービスの安全性・安心感の向上、リスク低減に努めていく。→ユニット会議内で予防処置を立案し、インシデント・アクシデント報告書にて他職種で原因究明・対策を立案し実施し、リスク低減に努めた。</p> <p>1-2. 他職種間の連携・情報共有の強化、アセスメント力の向上により、利用者個々のニーズを汲み取り、実現に取り組む。→昼のミーティングや部署間の連絡表の作成により、情報共有の強化を図り、利用者個々の状況に応じたケアを実施。</p> <p>2-1. 実務に即した感染防止マニュアルの見直し、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。→コロナ感染を中心に都度マニュアルの作成やシミュレーションの実施により、施設内に感染を持ち込まないよう努めた。</p> <p>2-2. 新しい生活様式に合う新たなサービスの構築を行うことで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。→コロナ禍で外出・外食の制限があったが、感染対策をしたうえで、施設周辺の散策や1人カラオケ等のレクリエーションを実施。</p> <p>3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。→インスタグラムへの投稿、長期利用者の家族へのお便りの発送にて近況報告を行うなど情報発信を実施。</p> <p>4-1. 主任・リーダー、サブリーダー等、正規職員、準職員、非正規職員の業務・役割の分担化を明確にしていくことで、人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。→枠組みを作成するも職員の減少やコロナ禍により、実行が不十分な部分が見られた。</p> <p>4-2. 目標達成・取組に対しての評価・フォローアップをコミュニケーションを交えて行い、必要時は指導を行う。また個々のスキル向上に向けて、個人目標、教育計画等を活用しながら取り組む。→品質目標の確認にて目標達成・取り組みの評価を行ったが、必要な職員に対しては指導を実施。</p> <p>5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。→LIFEに関する加算(科学的介護推進体制加算I、栄養マネジメント強化加算)、安全対策体制加算を新たに算定できた。</p> <p>6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率が意識しやすいよう努めていく。→オムツの集計表を作成する等数値化に努めた。</p> <p>(2) 事務部総括</p> <p>2-1. 安全・安心な生活環境を整えつつ感染対策をしながら日々の業務に努める。→他部署間で職員が出来るだけ接触しないよう出入り口をわけ感染対策に努めました。</p> <p>2-2. 新しい生活様式を取り入れながら他部署と連携し環境整備に努める。→職員の出入り口を分け、なるべく他部署間で職員が接触しないようにし、タイムレコーダーを事務所から玄関口に出し感染対策に努めました。</p> <p>3-1. 施設の魅力や提供するサービス内容をいち早く発信をし千鳥会の良さをアピールする為、様々なSNSを使い情報発信を行うように努める。→Facebookの配信が出来なくなりインスタグラムで情報発信を定期的に発信するよう努めました。</p> <p>5-1. 介護報酬改定に伴い加算取得するため情報収集に努め生活相談員と相談しつつ適正な収入の確保に努める。→加算取得に向けて情報収集し介護報酬の収入確保に努めました。</p> <p>6-1. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な収入の確保に努める。→毎月兵庫県から配布されるアルコールの申込を行い、補助金の申請、経費削減に努めました。</p> <p>6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し予算執行率を毎月確認し財務管理に努める。</p>
--

→新型コロナウイルスと入院者が増え収入が予算より大幅に減りました。少ない人材で人件費を抑え経費削減に努め収支を最小限にとどめるように努めました。

### (3) 介護支援専門員総括

1-1. 4 半期に 1 つ以上予防処置を立案する。また立案した予防処置を定期的に見直し、サービスの質の向上に努める。→会議体での提案やケアプラン作成に係る書類や手順の見直し、インシデント・アクシデントにおける訂正や修正等は実施したが、予防処置の立案は出来なかった。

1-2. 他職種と連携・情報共有し、利用者のサービスの実現・生活の質の向上が図れるケアプランが作成できるよう努める。→他職種協働でケアプラン作成ができるよう情報を集約・発信してカンファレンスを実施し、より良いケアプラン作成に努める事が出来た。

2-1. 感染源を施設に“持ち込まない”を徹底するため、感染対策を常に意識し、体調管理を行う。→体調管理や感染症の情報・予防対策を常に意識して業務に従事することが出来た。

2-2. 利用者が日々喜びを感じられる環境提供ができるサービスを立案する。→感染予防対策を取りながら、利用者と干し柿作りや獅子舞の披露などが提供出来た。

3-1. フェイスブックやおたよりを活用し、千鳥会の取り組みや魅力を発信する。→Instagramへの投稿、長期利用者の家族へのお便りには直接関わりは持てなかったが、他事業所の居宅介護支援専門員等と話す機会があれば情報発信する事が出来た。

4-2. 明確な評価ができる活動計画の設定と、結果や評価を考察して次の目標達成に向け意識の向上を図る。→介護支援専門員の業務を覚えながら、ショートステイを含む個々の利用者の把握に努め、施設におけるケアマネジメントに取り組む事が出来た。

5-1. 法令遵守に沿った体制づくりと加算取得に努める。→長期利用者の入退院等があったが、ショートステイを含めケアプラン作成は滞りなく作成出来た。

6-1. 収益に対して意識を持ち、安定した稼働率と経費削減に努める。→ケアプラン作成に係る書類や手順の見直しを図り、時間や手順、経費削減に繋げる事が出来た。

### (4) 介護職員総括

#### 【介護主任】

1-1. 利用者の日常生活に安心感が得られるよう、危険因子を除去するための予防策を講じ、リスク低減に努めることで安全性を確保する。

→年間を通して勉強会を実施。各ユニットで予防処置を立案し、実施。

1-2. 他職種間の連携・情報共有の大切さ・アセスメント力の向上を行うことで利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。→昼ミーティングを活用し、他職種で情報共有を実施。「なんでもノート」のデータ化を活用し、2 階・3 階共に情報交換することが出来た。

2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルの見直しを都度行い、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。→特養の部署内で感染対策委員会を開催し、現場職員からの声を吸い上げ、写真や文章等を用いて特養で出来る感染対策を講じた。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に対応し、利用者にとって温かな日常生活の提供が保持出来るよう努める。→利用者が家族と対面出来ないストレスの軽減は課題であるが、感染対策を意識しながら、各ユニットと共に四季折々の行事計画を計画し実行することが出来た。

3-1. 千鳥会の取り組みを多用な手段を活用し発信することに努める。→情勢に応じながら発信することが出来た。

4-1. 各々の役職が責任を自覚して主軸となり、人材育成・組織風土作りに努める。→各ユニット共に、リーダー・サブリーダーが自覚をもち、各ユニットの職員への気配り、配慮、業務の効率、利用者へのケアに取り組むよう、よく連携を図り十分な対応をしてくれる人材となっている。

4-2. 明確な目標をもち、個々のスキル向上を目指し、個人目標、教育計画等を活用しながら、達成に向けた支援に取り組む。→各々の個人目標の確認、意識付けの声かけを行うことが出来た。また、勉強会の講師の相談役になって、勉強会の内容を確認、アドバイスをを行い、職員個々のスキル向上に努めた。

5-1. 2021 年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。→科学的介護推進体制加算 I など LIFE に関する加算を新たに算定するにあたり、加算の算定要件や仕組み、ほのぼのソフトへの入力の方法などを職員に周知し、加算取得に繋げた。

6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率の確保に努める。→前年度からの課題のおむつ代のコスト意識はもちろん、新たに物品係を今年度作ったことにより、様々なコスト意識が芽生えた。

#### 【2 階ユニット】

1-1. 利用者の生活の安心、安全を追求し、サービスの向上、リスクの低減に努める。→会議等で他職種との話し合いを行う中で危険予測を行い、リスク低減に繋げる事で、利用者が安心して生活できるように努めた。

1-2. 1-2. 他職種との連携を意識し、利用者個々の想いを汲み取り、アセスメントの向上、QOL を高める。→コロナ過などもあり利用者の想いを汲み取ったケアにつなげることが出来なかった。

2-1. 都度感染対策マニュアルを見直し、情勢等に対応した対策の徹底を図り、安心安全な生活環境を支える。→フロアや全体での感染対策や環境づくりなど行うことが出来た。

2-2. 新しい様式を取り入れながら、新しいサービス等に取り組み、利用者の生活の充実を図る。→コロナ過でのサービスやケアの見直し、発信なども意識して行うことが出来た。

3-1. 千鳥会の施設での取り組みを外部などに発信し、魅力を伝えるように努める。→Instagramなど施設内での取り組みなど魅力を発信することが出来た。

4-1. 役職の役割をしっかりと認識し、専門職の視点で指摘、スキルアップし合える組織作りを目指す。→各係や委員会などを通じてスキルアップに努め職員間で指摘し合えるような環境作りに努めた。

4-2. 個人目標や教育計画を通して各職員が明確なビジョンを持って、スキル向上やフォローアップに努める。→都度個人目標の遅れがないか確認して達成度なども意識した目標や実施が出来ているかアドバイスやフォローアップを行った。

5-1. 2021 年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。→職員個人が加算を意識したケアやサービスな

ど行えるような環境作りに努めた。

6-1. 職員一人一人が数値化やデータ収集を意識し、稼働率、経費削減に努める。→オムツやパットなど備品などの経費削減を意識して職員間でデータ収集を行い数値の見える化を行った。

### 【3階ユニット】

1-1. 利用者が生活で安心して生活できるように危険予測を行い、リスクの低減に努める。→危険予測を行いリスク低減に繋げる事で、利用者が安心して生活できるように努めた。

1-2. 1-2. 他職種との連携と情報共有を行い、またアセスメント力を向上する事で利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。→利用者の個々のニーズを意識する事で、ケアプランの目標や注意する点を職員全体で話し合い、生活の質の向上に努めた。

2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルにて感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。→新型コロナウイルスでは変異株によつての感染症対応に変化があり、都度確認して行う。感染症防止マニュアルの更新や呼びかけを都度実施した。

2-2. 新しい生活様式を取り入れたサービス等に取り組み、利用者が穏やかに日々生活できるように努める。→感染症防止の為、クッキングレク等はほとんどできなかったが、時間を見つけて利用者の好みに合わせたレクリエーションが実施できるように努めた。

3-1. ユニットでの取り組みを外部に発信し、千鳥会の魅力を伝えるように努める。→インスタグラムで情報を発信している。出勤人数が不足している時もあり、情報発信を一旦停止する事もあった。

4-1. 役割を認識し、専門的な知識・技術をスキルアップし合える環境作りに努める。→係や委員会だけでなく、職員同士で意見交換を行う。専門的な知識・技術のスキルアップは、職員同士で話し合う機会が少なく、なかなか進まなかった。

4-2. 明確な目標を持ち、また計画的にスキル向上を目指し、個人目標や教育計画等を活用して支援する。→昨年度に引き続き、施設内の勉強会はレポートで個人学習する機会があった。

5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

→職員個々で加算を意識し、加算取得に向けて実行できた。

6-1. 業務内容の見直し、数値化やデータ収集を意識し、経費削減に努める。→ペーパーレスと介護主任、ケアマネ、相談員らとの情報共有にもつながるように業務連絡をパソコンで実施する。オムツの発注数を数値化する事で情報収集し、経費削減に努めた。

### (5) 看護部総括

1-1 利用者の安全・安心な生活を守るため、起こりうるリスクを認識し、事故の予防につなげる。

→内服薬のアクシデントが数件続いた。確認作業を徹底し事故予防につなげたい。

1-2 他職種間の連携・情報共有を重視し、利用者一人ひとりのニーズの尊重、生活の質の向上に取り組む。→看護連絡票、受診記録を改善し、情報共有に活用できている。血液検査、体重測定、胸部レントゲン撮影、嘱託医の回診にて、利用者の健康状態を把握し、一人一人の状態に合わせた処方、看護を行い生活の質向上に役立てることが出来た。

2-1 感染症に対する正しい知識の習得、自身の健康管理、感染防止マニュアルを見直し、感染対策の徹底を図り、利用者の安全・安心な生活環境を支える。→インフルエンザワクチン接種、新型コロナワクチン接種を利用者・職員へ実施、毎日の体温測定、体調観察にて感染の早期発見に努めた。また、マスク着用、手洗い、手指消毒、環境整備、人との密接な接触を避ける等、感染症予防に取り組み、施設内での感染は起こらなかった。

2-2 新しい生活様式を取り入れた施設での生活の中に、利用者にとって、喜びや楽しみ、生きがいを感じられる生活環境の提供に努める。→感染予防を行ったうえで、レクリエーション等を行っていたが、ストレスを感じる利用者も多くいる。喜びや生きがいを感じられる生活を提供できるよう、今後も取り組んでいきたい。

4-2 個々のスキル向上に対して明確な目標を設定し、達成に向けて取り組む。→毎月の勉強会での学びが、日々の業務に生かせていなかった部分もあるため、スキル向上のための目標設定、達成に取り組んでいきたい。

5-1 介護保険制度についての理解を深める。→介護保険制度について、勉強会での資料を参考に知識を深められるよう取り組んだ。

6-1 働きやすい環境作り、業務内容の見直しに取り組む。また、適切な在庫管理を行い経費削減を目指す。→メディカルの物品配置の変更等、職場環境を改善した。また、在庫管理を適切に行うことで、経費削減する事が出来た。

### (6) 管理栄養士総括

1-1. 食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気づき、利用者や委託会社の調理業務に支障が発生しないようにする。→利用者等、食事提供に支障がでるようなことはなかったが、厨房機器の故障があり、委託会社職員に調整してもらった。

1-2. 利用者、家族と関わる際には、その人らしい生活を継続する為の情報を収集できるような関係を築き、食事等に反映していく。

→家族から利用者のことを主にカンファレンスで聞くことができ、少しだが利用者対応に反映することができた。

1-3. 災害、食中毒が発生しても、加熱調理や水を使わないで提供できる食品を選定、3日間耐えることを想定とした備蓄食品を用意する。

→食卓委員会でサンプルを試食してもらい、ご利用者に合った備蓄食品を決めることができ、施設内に備蓄している。

2-2. 利用者が好む献立や希望する内容に近づけるような献立作成に努める。→嗜好調査や、食事時間の観察などから、聞き取りでき献立に反映している。

3-1. ユニットで行う調理レク時、厨房が関わる際、スムーズに連携できるよう段取りし、SNS等に発信できるよう協力する。

→クッキングレクはあまりできなかったが、厨房から提供した行事食等をご利用者と共にSNSに上げて発信できた。

4-1. 5-1. 職員間の情報交換・共有に努め、福祉制度の知識や栄養等のスキル向上を目指す。

→外部研修もリモートで研修に参加することができた。

6-1. 安心安全な食事提供を維持しつつ、安定した食材管理と無駄を無くし、経費削減に努める。→食材高騰したが、利用者が少ない時は、食数を減らすことで無駄に仕入れることなく、野菜が安定していたこともあり、安定した管理ができた。

### (7) 地域支援事業総括

#### 【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

できるだけ住み慣れた地域で自分の力で、活動的な生涯を送りたいという願いを現実のものとするために、要介護、要支援状態になる前か

ら、一人ひとりの状態に応じた予防対策を図るとともに、要介護状態になった場合においても、地域で自立した日常生活を送ることを目的として地域支援事業が実施されます。地域支援事業は介護サービスや、介護予防サービスと並び、介護保険制度の3つの柱の一つとして考えています。2021年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防対策を徹底した上での実施となり、新しい生活様式を取り入れた取り組みを行いました。

2014年度から開始したふれあいの集い・ちどりは、利用者が主体となり、プログラムを決め、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。また、介護認定を受けられた場合、速やかに必要な支援へと繋げられるよう取り組みを行いました。

配食サービスでは、お弁当を専任職員が配達するという事で安心感を持って利用頂き、またお弁当を配達するだけでなく安否確認、コミュニケーションを図ることができ、家族との情報共有等も行っています。

2018年2月23日よりローソン東浦浦店内にケアローソンとして介護相談窓口を開設しました。介護支援専門員等の相談員が常駐し、介護相談援助業務を行い、必要時は、行政機関、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、担当介護支援専門員、事業所等に情報伝達、共有を行い、問題解決ができるように支援しました。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのかが使命であるが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みたいと思います。

## 2022年度への課題及び展望

### (1) 特養部方針・計画

1-1. 利用者個々に起こりうる危険を認識し、原因究明・対策・予防処置を立案し、サービスの安全性・安心感の向上、リスク低減に努めていく。

1-2. 他職種間の連携・情報共有の強化、アセスメント力の向上により、利用者個々のニーズを汲み取り、ニーズの実現、生活の質の向上に取り組む。

1-3、2-1. 実務に即した感染防止・災害時マニュアルの見直し、シミュレーション・訓練の実施を通じて、安全・安心な生活環境を支える。

2-2. 新しい生活様式に合った新たなサービスの構築を行うことで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。

3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。

4-1. 主任・リーダー、サブリーダー等、正規職員、準職員、非正規職員の業務・役割の分担化を明確にしていくことで、人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。

5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率が意識しやすいよう努めていく。

### (2) 事務職員方針・計画

2-1. 安全・安心な生活環境を整えつつ感染対策をしながら日々の業務に努める。

2-2. 新しい生活様式を取り入れながら他部署と連携し環境整備に努める。

3-1. 施設の魅力や提供するサービス内容をいち早く発信し千鳥会の良さをアピールする為、様々なSNSを使い情報発信を行うように努める。

5-1. 2021年度介護報酬改定に伴い内容を把握し適正な加算取得するための情報収集に努め生活相談員と相談しつつ収入の確保に努める。

6-1. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な収入の確保に努める。

6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し予算執行率を毎月確認し財務管理に努める。

### (3) 介護支援専門員方針・計画

1-1. 発生するインシデントやアクシデントにおいて、原因究明を細かく行うことで再発防止・リスク軽減を図る。

1-2. 他職種と連携・情報共有し、利用者のサービスの実現・生活の質の向上が図れるケアプランが作成できるよう努める。

1-3、2-1. 施設に感染源を“持ち込まない”ように、最新の感染対策を常に意識する。災害時訓練についても感染予防を図りながら、有事の際に対応できる環境を整えておく。

2-2. 利用者が日々喜びを感じられる環境提供ができるサービスを立案する。

3-1. フェイスブックやおたよりを活用し、千鳥会の取り組みや魅力を発信する。

4-1. ケアプラン作成における他職種協働が円滑に図れるための取り組みを構築する。

4-2. 明確な評価ができる活動計画の設定と、結果や評価を考察して次の目標達成に向け意識の向上を図る。

5-1. 法令遵守に沿った体制づくりと加算取得に努める。

6-1. 業務の見直しを図ると共に収益に対して意識を持ち、安定した稼働率と経費削減に努める。

### (4) 介護職員方針・計画

#### 【2階ユニット】

1-1 ヒヤリハットだけではなく、アクシデントに繋がる小さな原因などを見極める目を養い、リスク低減に努める。

1-2 他職種間の情報交換をしっかりと行い、利用者個々のニーズに沿ったサービスを提供する。

1-3 2-1 日々変化する感染対策や災害マニュアルを、リアルタイムにシミュレーションを行い改善に努める。

2-2 新しい生活様式を様々なケアに落とし込み、新しいサービスの提案を行い利用者が安心できる環境づくりを行う。

3-1 施設での生活やイベントなど外部に発信をして魅力をしっかりPRする。

4-1 職員個々で自分の役割や専門性を意識した仕組みや職場作りを行う。

4-2 個人目標を通じてスキルアップや、やりがいを明確に持ってもらうように支援に努める。

6-1 職員個々で業務改善などを対案し、稼働率の安定や経費削減に務める。

#### 【3階ユニット】

1-1. 利用者が生活で安心して生活できるように危険予測を行い、リスクの低減・予防に努める。

1-2. 他職種との連携との情報共有、アセスメント力の向上を図る事で、利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。

- 2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルにて感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れたサービス等に取り組み、利用者が穏やかに日々生活できよう努める。
- 3-1. ユニットでの取り組みを外部に発信し、千鳥会の魅力を伝えるように努める。
- 4-1. 役割を認識し、専門的な知識・技術をスキルアップし合える環境作りに努める。
- 4-2. 明確な目標を持ち、計画的にスキル向上を目指し、個人目標や教育計画等を活用して支援する。
- 5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。
- 6-1. 業務内容の見直し、数値化やデータ収集を意識し、経費削減に努める。

**(5) 看護部方針・計画**

- 1-1. 利用者の情報収集、情報共有を図り、起こりうる危険を予測する事ができ、原因究明・対策の立案ができるように努める。また、家族へ日々の利用者の状況を伝えることで、信頼関係を築き、サービスの安全性・安心感の向上を図る。
- 1-2. 他職種間の連携・情報収集・情報共有を重視し、利用者個々のニーズの尊重・実現・生活の質の向上に取り組む。
- 1-3・2-1. 自身の健康管理、感染予防意識をしっかりと持ち、施設業務に即した感染対策を実施する事で、利用者の安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式での施設生活に、利用者が喜びや楽しみ・生きがいを感じられる生活環境の提供に取り組む。
- 4-2. スキル向上に向けて明確な目標を設定し、達成に向けて取り組む。
- 6-1. 働きやすい環境作り、業務内容の見直しに取り組む。適切な在庫管理、使用物品の無駄を無くし、経費削減を目指す。

**(6) 管理栄養士方針・計画**

- 1-1 委託職員と連携し、食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、利用者や委託会社の調理業務に支障が出ない危機管理に努める。
- 1-2. その人らしい生活を継続する為の情報を利用者や家族と関わる時など収集できるような関係を築き、食事等に反映していく。
- 1-3. 災害、食中毒が発生しても、加熱調理や水を使わないで提供できる食品を備蓄しているが、緊急事態発生時に職員が使えるようにする。
- 2-2. 利用者が好む献立や希望する内容に近づけ、飽きない献立作成に努める。
- 3-1. ユニットで行う調理レク時、厨房が関わる際、スムーズに連携できるよう段取りし、SNS等に発信できるよう協力する。
- 4-1.5-1. 多職種（委託会社職員含む）の情報交換・共有に努め、知識や栄養等のスキル向上を目指し、制度に遵守した業務を行う。
- 6-1. 食材高騰の中でも質の安定に努め、食材管理の無駄を無くし、安心安全な食事提供を維持する。

**(7) 地域支援事業方針・計画**

**【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】**

**「地域見守り事業」**

地域住民が住み慣れた場所で安心して生活ができるように、特養の機能を活かした拠点づくり、地域支援（地域貢献）事業、地域見守り事業を展開する。

「目標値」 毎月登録者 10名

**「ふれあいの集い」**

住み慣れた環境、地域での生活をできるだけ維持していけるように支援していく。また、利用者の心身の状況を把握し、早期発見、相談援助を行い、利用者が自立した生活を送れるように支援をしていく。自宅付近と施設間の送迎を行い、必要時は買い物支援、外出支援を通して楽しみを持っていただき、閉じこもりの予防、馴染みの関係を大切にしながら、生きがいのある人生を送れるようにします。利用者の状態変化、必要に応じて各関係機関と連携しスムーズなサービス提供に繋げて行けるよう支援します。

「目標値」

1年間の延べ利用者数 100名

**「配食サービス」**

利用者が住み慣れた地域での生活が維持できるように支援していく。また、配食サービスを通して、利用者の心身の状況等についても確認し、必要時は関連機関と連携を図り、地域支援サービス、見守りの充実を図る。

「目標値」

1年間の延べ配食数 3000食

**「介護相談窓口」**

**【事業目的】**

地域の高齢者、又はその家族に対し、様々な相談に応じ、そのニーズに対応した相談援助を行い、必要時には各関係機関との連絡調整を行い問題解決に努めることを目的とします。また、サロン活動等を通して地域の方が気軽に集え、顔なじみの関係性ができ、必要時には相談援助ができる関係作りを目指します。

**【運営方針】**

- (1) 地域の高齢者、又はその家族に対し、介護に関する相談に応じ、ニーズに対応した支援方法を助言します。
- (2) 相談内容に応じて、各種の保健、医療、福祉サービスが受けられる様、関係機関に連絡調整します。
- (3) 要介護高齢者等の生活機能の低下を予防するという観点から、サロン等を通して介護予防啓発に努めます。

**【事業計画】**

- (1) 地域住民に的確な助言が行なえ、必要時には各関係機関と連携を取り、問題解決ができるよう責任をもって業務を行います。
- (2) 地域の高齢者に気軽に相談していただけるような雰囲気作り、サロン等の開催を行い、啓発事業を展開、拡大することでインフォーマルサービスの活性化、地域力アップを目指していきます。

「目標値」

1年間の延べ相談件数 50件

## 津名デイサービスセンター（介護保険・淡路市日常生活支援総合事業）

### 2021 年度事業所総括

#### （１）デイサービス総括

- 1-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行い、安全に、安心してデイサービスを利用できるようにする。→連絡ファイルを活用し、伝達事項、アクシデント、アセスメント、日誌の情報を共有することができた。
- 1-2. 個々のニーズを把握し、利用者が主体的な活動、社会参加、生活の質の向上等が行えるサービス、プログラムを提供する。→個別ケアの充実を図り、利用者のQOLの向上に繋げる取り組みができた。
- 1-3-2-1. 感染対策マニュアル、災害時マニュアルの改訂、訓練等を通じて災害時にも対応できる体制づくりを行う。→新型コロナウイルスに対応したマニュアルの改訂、「新しい生活様式」の通常対応、規制対応の作成を行うことができた。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れた（三密の回避）サービス、活動の提供を行い、利用者満足度を高める。→感染予防対策を実施した上で、安全に、楽しく利用できるプログラムの作成、サービス提供ができた。
- 3-1. SNS を活用し、積極的な情報発信を行うことで、法人、津名デイ、千鳥会ゴールド、千鳥会在介のブランド力向上に繋げる。→定期的にインスタグラムにて情報発信ができた。
- 4-1 専門職、役職者の各々の役割、業務を明確にし、チームケアの中で、組織力向上と、良好な人間関係構築に努める。→業務内容、専門職の役割などを明確にし、取り組みを行った。コロナの流行もあり、会議の場を設ける機会が少なく、コミュニケーションが不十分なところもあったので、来年度は工夫をして実施したい。
- 4-2. コミュニケーションを重視し、個々の思い、活動、目標が、部署内で共有でき、利用者・職員満足向上に繋がるよう支援する。→部署内のコミュニケーションを重視し、思いが共有できるように取り組みを行った。今後も継続して取り組む必要性が高いと考える。
- 5-1. 介護報酬改定の情報を収集し、適切な運営ができるように努める。→制度改正に応じた対応ができた。新たな加算を取得することができた。
- 6-1. 選ばれる事業所作りを引き続き行い、サービスの向上、稼働率の向上を目標に取り組む。→デイ全体で稼働率の向上に向けての取り組みができた。

#### （２）生活相談員総括

- 1-1. 気づきを予防処置として取り上げ、情報共有することでリスク回避を図り、アクシデントを予防していく。→朝礼で伝達事項の確認、連絡ノートを活用を行い、アクシデントの対策を共有し、類似したアクシデント・インシデントの予防に努めた。
- 1-2. アセスメント力のスキルアップを目指し、個々のニーズを汲み取り、利用者が生き生きと活動できるサービスを考え提供する。→アセスメント力のアップを目指し、初回面接時だけでなく、送迎時などでも話やすい雰囲気を心がけ、家族、本人の意向を聞き取れるようにコミュニケーションを図った。
- 2-2. 引き続き感染対策を行いながらも、利用者の声を聴き、新たな取り組みにも挑戦する。→新規利用者や家族に感染予防の取り組みの説明と同意を得ることが出来た。また新しい取り組みが行いやすくなるように介護リーダーと情報共有に努めた。
- 3-1. 6-1 日々の取り組みをデイ便りや SNS で発信できるように現場と協力する。また津名デイの強みや魅力を積極的にアピールすることで稼働率向上に繋げる。→取り組みや利用者の声を外部に発信し、魅力を伝えることができ、新規獲得に繋がり、毎月新規利用者を獲得することが出来た。
- 4-1. 4-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深める事で、他の職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるように努め、利用者の満足向上に繋げる。→感染予防でデイ会議が開催できないこともあり、少人数での会議を持ち、利用者の満足度が向上するようにリーダーや他職種と話し合いを行うことが出来た。
- 5-1. 介護報酬改定内容を正しく理解し、利用者家族へ説明、同意を適切に行う。→科学的介護推進体制加算算定に向けてご利用者ご家族、他事業に対して説明同意を行った。

#### （３）看護職員総括

- 1-2. 他職種と相談し、インシデント・アクシデント・その他共有しなければいけない情報・個々が得た利用者のニーズや気持ちの共有方法を考え、対策や援助を実行することで、利用者にあったサービスやプログラムを提供する。→緊急事態宣言もあり、他職種と相談する機会も減ったが、連絡ノートの活用や分かりやすい記録を相談員日誌へ挙げる事で、情報共有の手段の1つとした。またご利用者の体調に合わせて援助を行う時の指示を出せた。
- 1-3・2-1. 感染対策マニュアルを基にした勉強会を実施し、災害訓練などに参加することで、実際のイメージ作りを行い、他職種と連携した行動がとれるように話し合う。→感染対策のシミュレーションを実施し、実際のイメージ作りを行った。コロナ禍で勉強会が開催できない中、避難訓練を紙面上で確認し、実際の時に行動できるよう参考にした。
- 2-2. ・6-1. レクリエーション委員会を行い、3 密回避が出来ているかを確認しながら、イベントを実施できるように他職種と連携し、計画立案・実施することで稼働率アップへとつなげる。→レク委員会は開催せずに1年が過ぎた。只イベントは行っていたので、3 密回避や換気などの対策を確認し、環境作りを心がけた。自粛や入院などもあり、稼働率アップまではいかないが、新規獲得出来ている点では、良かったと思う。

#### （４）介護職員総括

- 1-1. 利用者の情報やリスクを、職員、他職種と共有を図り、さらに安心して過ごせるよう、ルール開発に取り組む。また、インシデント・アクシデントの職員と共有し事故防止に努める。→相談員とコミュニケーションを図り、利用者の情報収集を行い、職員間で共有しインシデント等発生防止を行うことが出来た。
- 1-2. 4-2 利用者個々の情報や、普段のコミュニケーションから個々のニーズを把握して、津名デイサービスで生きがいや喜びを感じられるよう個々にあったサービスを提供する。→利用者のニーズに合うサービス（体操・ゲーム・個別レク）を提供し満足して頂けた。
- 2-2. 季節に合った行事や、普段のレクリエーションを新しい様式を取り入れた内容で行えるよう職員間で意識したサービスを提供し、利用者

の満足度を高める。→季節のレクを他職員とともに考え、季節行事を利用者に楽しんで頂けた。

3-1. デイでの普段の様子や、イベントまた津名デイ独自の活動など SNS を活用し情報を発信してブランド力向上を図る。→インスタグラムを定期的に発信、津名デイ便りで、ここでの取り組みを外部に発信し津名デイのブランドを知ってもらえる事ができた。

4-1. 多職種や各職員の役割分担を明確にし、効率よく業務を図ることで、活動しやすい職場づくりに努める。→各職員の強みを生かして、サービス提供を行い、職員も楽しくレクなどすることができた。

6-1. 利用者が満足し、津名デイを選んでいただける雰囲気作りに努める。→普段から、利用者となじみの関係を築き、津名デイサービスを選んでもらうことができた。

## 2022 年度への課題及び展望

### (1) デイサービス方針・計画

1-1. 2-1. リスク（事故・感染対策等）、クレームへの対応力、意識の向上に取り組み、安全、安心して利用できる事業作りを目指す。

1-2. 利用者ニーズに沿ったサービスの提供を目指し、利用者の ADL、QOL の向上に取り組む。

1-3. BCP（事業継続計画）の計画、準備を行い、サービスの提供が継続できるようにする。

2-1. 2-2. 新しい生活様式を取り入れながら、安全、安心して利用できる生活環境の提供に努め、顧客満足向上に繋げる。

3-1. 施設の魅力・提供するサービス内容・等、積極的な情報発信に努め、法人のブランド力を高める。

4-1. 4-2 働きやすい職場環境の提供を目指し、職員間のコミュニケーションの充実、具体的な目標設定、方針の明確化、人材育成の構築に計画的に取り組む。

5-1. 法令を遵守した適切なサービスが継続的に提供できるようにする。

6-1. 事業計画、予算に沿った活動ができるように、稼働率の向上、経費削減に努め、安定した収入を確保する。

### (2) 生活相談員方針・計画

1-1. 2-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行いリスク低減に努めていく。また利用者家族の声に向き合い、十分な説明を行う。

1-2. 個々のニーズを把握し、アセスメント力の向上を行うことで、利用者の ADL・QOL の向上等が行えるサービスを提供していく。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に挑戦し、顧客満足度向上を目指す。

3-1. SNS を活用し、積極的に情報発信を行い、津名デイの取り組みや魅力を発信する。

4-14-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深めることで、ほかの職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるよう務め、個々が計画的に目標達成できるようにサポートする。

5-1 介護保険の理解を深め、適切なサービス提供を行う。

6-1 選ばれる事業所作りを行い、安定した稼働率を目指す。

### (3) 看護師方針・計画

1-1. 2-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行いリスク低減に努めていく。また利用者家族の声に向き合い、十分な説明を行う。

1-2. 個々のニーズを把握し、アセスメント力の向上を行うことで、利用者の ADL・QOL の向上等が行えるサービスを提供していく。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に挑戦し、顧客満足度向上を目指す。

3-1. SNS を活用し、積極的に情報発信を行い、津名デイの取り組みや魅力を発信する。

4-14-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深めることで、ほかの職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるよう務め、個々が計画的に目標達成できるようにサポートする。

5-1 介護保険の理解を深め、適切なサービス提供を行う。

6-1 選ばれる事業所作りを行い、安定した稼働率を目指す。

### (4) 介護職員方針・計画

1-1 普段からリスクに対する意識を持ち、事故を防ぐ。その他に利用者のアセスメントも多職種と共有し、利用者が安心して過ごせる津名デイを目指す。

1-2 津名デイでどんなことをしたいか、利用者の普段の様子や会話から聴き取り、個々にあったレクリエーションなどのサービスに繋げて、ADL などの向上に取り組む。

2-1 新しい生活様式の中で、出来るレクリエーションや行事を職員とともに企画を行い、顧客満足度に繋げる。

3-1 デイ便りや、インスタグラムなどを活用して、津名デイの魅力の情報発信を行い津名デイブランドを高める。

4-1 職員も輝ける現場にするため、レクリエーションなどで各職員の強みを最大限に発揮できるように、普段からコミュニケーションを取り業務の安定を図る。介護技術は解りやすく楽しく学び、津名デイの技術向上を図る。

6-1 津名デイを選んで頂けるよう、利用者個々のニーズを大切に稼働率向上を目指し、安定した収入を確保する。

## 千鳥会居宅介護支援事業所（千鳥会在宅介護支援センター）

### 2021 年度事業所総括

1-1. サービスの「質」と「信頼性」を高めるために、予防処置を立案し、更なる改善に努める。→請求ミスに対し、請求の際の確認方法を検討し、確認内容を変更した。

1-2. 利用者のニーズと意思を尊重し、利用者の生活の質の向上に努め、自立心も高める。→アセスメントでニーズを把握する様に務め、出来る限り、生活の質、自立心が高まる様に計画を作成、実施した。

1-3. 利用者の災害リスクを把握し、災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。→現在、旧町単位で災害に対するリスクや対応を検討中。感染症に対しては、コロナウイルスが流行していても、出来る限り生活の質が下がらない様に調整を行った。

2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得つつ、気を緩めずにコロナウイルスへの感染対策を徹底し、業務に臨む。

→気を緩めず、感染対策を行う事で滞り無く、業務を行う事ができた。

2-2. 「新しい生活様式」を取入れながらも、視点を変え、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。→新しい生活様式の中でも利用者が喜びを感じながら生活出来る様、計画を作成、実施した。

3-1. 各会議等で各事業所・提供するサービス内容等、積極的な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。→地域の会議等に参加し、地域に有用な情報の発信が行える様に務めた。

4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。→良好で温かい人間関係が醸成出来る様に風土づくりに努めた。

4-2. 実現可能な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努め、実績に繋げる。→実現可能な目標管理を行ったが、サービス終了者や新規の利用者の数にバラつきがあり、変動がある実績となってしまった。

5-1. 2021 年度介護報酬改定法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。→入退院や通院同行に伴う加算を取得し、収入の安定に努めた。

6-1. 経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。各事業所、サービスの稼働率についても把握する。→経費削減に努めた。また、各事業所の稼働率についても把握し、情報を共有した。

#### 2022 年度への課題及び展望

1-1. サービスの「質」と「信頼性」を高めるために、予防処置を立案し、更なる改善に努める。

1-2. 利用者のニーズと意思を尊重し、利用者の生活の質の向上に努め、自立心も高める。

1-3. 利用者の災害リスクを把握し、災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。

2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得つつ、気を緩めずにコロナウイルスへの感染対策を徹底し、業務に臨む。

2-2. 「新しい生活様式」を取入れながらも、視点を変え、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。

3-1. 各会議等で各事業所・提供するサービス内容等、有用な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。

4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。

4-2. 実現可能な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努め、実績に繋げる。

5-1. 法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。

6-1. 経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。

### 千鳥会在宅介護支援センター

#### 2021 年度事業所総括

1-2. 利用者のニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ信頼関係を構築し住みなれた地域で在宅生活が継続できるよう支援していく。→個人、地域のニーズを把握し、必要な支援につなげることができた。

1-3. 2-1 防災や感染症について正しい知識を学びつつ情報収集を行い、行政や地域と協働し BCP 策定に参画する→津名地域では行政や地域と協働し BCP 策定に向け動き出すことができた。

2-2. 新しい生活様式に合う新たなインフォーマルサービスの構築などを行い地域づくりを行う。  
→新たなインフォーマルサービスを発見し協働することで地域に啓発することができた。

3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信し PR に努める。→コロナ禍で認知症サポーター養成講座の開催が少なかったが情報発信を積極的に行った。

6-1. 6-2. 経費削減を意識し適切な業務遂行を行い、適正な収益を確保する。→コロナ禍で会議等が中止になり、また訪問もしにくい状況となり適正な収益を確保することができなかった。  
\*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

#### 2022 年度への課題及び展望

1-2. 利用者ニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ、信頼関係を構築し住み慣れた地域で在宅生活が継続できるよう支援する。

1-3. 2-1. 防災や感染症についての正しい知識を学び、情報収集を行い、地域に啓発していく。また、地域や行政と協働し BCP 策定に参画する。

2-2. 新しい生活様式に合う新たなインフォーマルサービスの構築等を行い地域づくりを行う。

3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信し PR に努める。

6-1. 6-2. 経費削減を意識し、業務内容を見直し、効率よく業務が遂行でき、安定な収益が確保できるようにする。  
\*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

### 家族介護教室・家族介護交流事業

#### 2021 年度事業所総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味のある方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに役立てていただけるよう配慮し、計画していましたが、緊急事態宣言、コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止せざるを得ない状況でした。

その中でも感染予防に留意しながら年間 3 回開催しました。

参加する事で今までの悩みの解決方法を見つけることができ、視野が広がったとの意見も聞かれ、意義ある家族介護教室を開催すること

ができました。

今後も感染状況を見ながら開催し、在宅介護における不安や悩みが少しでも軽減できるよう、今後も様々な角度からの内容を提供していきたい。

#### 2022 年度への課題及び展望

2022 年度、家族介護教室及び家族交流事業においては以下の通りの内容を実施する。

感染症の状況により中止、回数減となる場合あり。

- (1) 座談会
- (2) 医療・健康
- (3) 作業療法、もの作り
- (4) 福祉用具
- (5) 施設見学
- (6) 実技
- (7) 終活、成年後見
- (8) 様々な介護保険サービスについての説明
- (9) その他

\*現在介護されている方だけでなく、一般に介護に興味のある方など、一緒になって勉強したり、情報交換を行い、高齢者介護についての話し合いが行えるような雰囲気作りを心がけ、多くの方が参加できるように努めます。

\*家族介護者交流事業は、介護者同士が交流を深めるとともに、心身ともにリフレッシュ出来る企画、計画をします。

### 高齢者住宅等安心確保事業（淡路市委託事業）

#### 2021 年度事業所総括

全世帯に定期的な訪問を週 1 回行う。独居者で体調不良等の訴えの方には、水分補給を促したり、受診を勧めたり、湿布を貼るなどで不安を取り除けるように臨機応変に対応した。全体的に単身者が多く、その中で認知症の出現により、介護認定が必要な方には、家族と連携し申請手続きを行い各サービスに繋ぐなど、他機関との情報共有、連携を行っています。また、高齢者夫婦世帯で、転倒を繰り返している方にも介護保険認定の申請手続きを行い、他職種連携のもと住み慣れた自宅での生活が続けられるように支援した。

住宅機器の不備に関しては緊急コールの多発報や、老朽化によるものなのか熱感知器や煙感知器の不具合が多くなり県や市に都度連絡し対応を行えた。

新型コロナウイルスの流行に伴い、自粛生活が続き「いきいき 100 歳体操」が中断されたままになっている。落ち着いたら再開予定にしている。

担当高齢者住宅では、長期入院、死去、施設入所、家族との同居による退去が多い反面、新規入居者は遅滞気味で空室の多い住宅があります。「今までに無かった入居者の空き室問題」についてもなかなか解決する気配がありません。

訪問、電話等での情報収集、状況把握、問題への気づき、改善が今まで以上に求められてきている。今後も入居者への定期的な安否確認を行い、課題については関係機関と連携し、日々の生活に不安が強い方には、在介、地域包括支援センター、社協、居宅介護支援事業所等と情報共有、連携を行い、自立した日常生活が送れるように努めたい。

#### 2022 年度への課題及び展望

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者の QOL の維持、向上。

1. 高齢者住宅入居者緊急時への 24 時間、365 日対応。
2. 行政、社協、介護支援専門員、地域住民等との情報交換による連携。
3. 生活援助員としての基本サービス、力量の向上。
  - ・週 1 回以上の訪問もしくは電話での安否確認、相談、緊急時の対応の継続。
  - ・入居者の介護、医療等に関する生活相談、情報提供を行う。
  - ・入居者の生活上の問題点について行政、介護サービス事業所等の関係機関へ連絡し、適切な社会資源の利用や自立支援を促す。
  - ・教育訓練・研修による生活援助員の力量の向上を図る。不足している資質を把握し、向上できるようにする。
    - 「気付き」を築く感性の強化の為の教育訓練・研修への参加。
    - 組織内の連携向上による、事業活動の円滑化に努める。
    - コミュニケーションによる入居者との信頼関係の向上と、生活上の安心の確保に努める。

\*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

## 特別養護老人ホームゆうらぎ

<p><b>2021 年度事業所総括</b></p> <p>ゆうらぎでは、ご利用者が安全に安心して生活が送られるように毎年事故減少に向けて取り組んでいます。現在では事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を作成しています。2021 年度については加齢による日常生活動作の低下もあり、重大事故が 4 件発生してしまいましたが、アクシデントの件数は減少しています。今後もリスクマネジメントを行い反復的に同じ事故を繰り返さないように、継続的に事故防止に力を入れていきます。</p> <p>2021 年度は「コロナ禍における家族との関わり」についての取り組みを掲げ、面会に来られないご家族への写真を送付や LINE 等の SNS を活用した取り組みについて 1 年間を通し実施し普段のご利用者の生活の様子を発信することができたと思います。オンライン・リモートでの面会についても希望されるご家族への提供ができていますが、スマートフォン等のツールを持たないご家族へのリモート面会ができておらず今後の課題となっています。稼働率について上半期は安定していましたが、下半期につきましては老衰や体調急変によるご利用者の退所が相次いだことと、2 月、3 月には施設内でのコロナウイルス感染が発生し長期間のご利用者受け入れ中止により大幅に稼働率の低下し、施設運営について不安定な状況となっています。加算関係では、10 月よりコロナ禍における収益確保として長期入所の方に科学的介護推進加算や栄養マネジメント強化加算を算定しました。加算の算定により収益確保につながったのではないかと思います。</p>
<p><b>2022 年度への課題及び展望</b></p> <p>2022 年度についてもコロナウイルスの動向に左右される恐れがありますが、積極的なご利用者の受け入れを行い地域への貢献や収益の安定化に繋がりたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナウイルス感染予防に留意しながら、地域を巻き込んだ記念行事を展開する。</li> <li>○内部、外部の研修について感染症の状況をみながら現地参加、リモート参加の検討を行い積極的な研修参加によりコロナ過においても学びの機会を失わないよう取り組みを行う。</li> <li>○感染症の予防対策を実施し、施設内での感染症蔓延を防止する。また定期的にマニュアルを見直し感染症が発生した際にも迅速に統一した対策が講じられるようにしていく。</li> <li>○高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントの研修を年間教育計画に盛り込み定期的な教育訓練により各職員への倫理意識の向上を目指す。</li> <li>○予防処置立案を会議等にて継続周知し各職員の予防の意識を高めることで重大アクシデント 0 件を目指す。</li> <li>○LINE 等、社会全体で普及しているアプリケーションを活用しリモートによる交促進に取り組む。</li> <li>○利用者のニーズを一早く察知し、事業所の質を高め、緊急・困難事例にも迅速に対応していけるようにする。</li> <li>○行事实施後に LINE 等の SNS にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。</li> <li>○内部コミュニケーションを充実させ、各自目標をしっかりと見据え、模範となる職員の育成を図る。</li> <li>○災害 BCP 計画についてゆうらぎ、北淡荘で協議を繰り返し施設内における BCP 計画の完成を目指す。</li> <li>○購入物品のコストオープン化を行い全職員がコストに対する意識を持てるよう取り組み不要な支出を避ける。</li> <li>○ショートステイの質を向上させ、選ばれることでショートステイ稼働率 100%以上（空床利用含む）を目指す。</li> </ul>

## ゆうらぎデイサービスセンター

<p><b>2021 年度事業所総括</b></p> <p>2021 年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。感染と、重症化を予防するワクチンの開発で、一時期は感染も減少しましたが、感染力の強い変異株の出現により、当施設でも、ご利用者、職員に感染が発生し、デイサービスの受け入れの中止、人数の制限を行いました。また、併設の施設内で感染が拡大して職員が不足し、デイサービスの職員が応援で勤務しなければならない状況となり、半月以上デイサービスの運営を止めざる負えない事態になりました。その間に、体調不良で入院になった方、特養に入所された方、他の事業所を利用する方も居られ、そして、特定の利用を 1 か月以上休止した影響もあり、稼働率が大幅に低下し、今までにない減収となりました。</p>
<p><b>2022 年度への課題及び展望</b></p> <p>2022 年度は、大きな方針の転換として、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないため、受け入れ定員を、60 名から 50 名にし、密を避け、より一層、安全、安心な施設環境を整え、昨年度以上に落ち込んだ稼働率の向上を目指し取り組んでいきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍が終息した暁には、法人開設 30 年、施設開設 15 年でもあり、記念行事を盛大に開催する。</li> <li>○感染症予防と、事故防止に取り組み、ご利用者が安全、安心に利用できる環境を作る。</li> <li>○オンライン研修を含め、職員教育を充実させ、虐待、身体拘束、ハラスメントゼロの環境を作る。</li> <li>○オンラインを活用し、他の事業所、地域との交流を図り、コロナ禍での行事充実により、利用者満足度を高める。</li> <li>○ご利用者が楽しめる行事を企画し、SNS で情報を発信する事で、選ばれる施設となる。</li> <li>○就業規則、法令の遵守を職員に周知し、安全、安心に働ける環境を作る。</li> <li>○稼働率 90%以上を目指す事と、加算の取得により、収益の向上を図る。</li> </ul>

## ゆうらぎ訪問介護ステーション

### 2021 年度事業所総括

昨年から続く新型コロナウイルスに対しての感染拡大しない、させない、持ち込まない、を合言葉に業務に取り組んでまいりました。また変異株が発生した時にはどのように対応していいのか迷いましたが、今までと同じように、「訪問時にウイルスを持ち込まない、受け取らない」をキーワードにさらに対策を行いました。今まで感染もなく訪問を続けることができたのは訪問介護員一人ひとりの対策の徹底だと思っております。最近ではご利用者のご家族が感染をしたとの報告があり、ご利用者宅に来ることができない、会うことができないと聞くようになりました。ご家族の援助がない、ヘルパーだけの訪問では不安や心配はありましたが何とか対応することが出来、お陰様で何事もなく今の生活を送ることが出来ました。引き続き継続をしていきます。そんな中でのリモートによる研修を実施しました。慣れないことへの挑戦は戸惑いましたが、今では当たり前ようになってしまいましたが、研修は今までと変わりはないですが人と人のかかわりが薄くなったように感じています。対面はいいのですが、つながりはないと言うか、ちょっと聞きたいことが聞けない。悩みを打ち明けられないようなことがあり、少し寂しさも感じています。今年度はご利用者が施設への入所や、軽費老人ホームの利用、ショートステイ（長期）を利用する方が多く、ご家族の長年の不安を安心にかえ、終の棲家となりうるような事業所としては利用の中止になるご利用者が多かったです。ご利用者の方々にも最後まで事業所としてご利用者やご家族への対応が取れたことは感謝の何ものかえがたい経験をさせていただきました。

### 2022 年度への課題及び展望

2022 年度は、さらなる感染への意識の徹底、ご利用者一人ひとりの訪問内容を見直し、ご利用者とのかかわり方や事業所としてどうあるべきか、どのような方法がいいのか倫理を学び意識を高めていきたいと考えています。

○職員の資質向上と職員倫理の徹底を図るために各種研修会の開催や外部研修（オンライン）に積極的に参加する。

⇒利用者ひとりひとりのサービスを見直す。サービスの質の向上にむけて、職場内研修及び、オンラインでの研修に積極的に参加し自己学習にも取り組む。

○感染対策の徹底と感染予防を継続し、集団感染ゼロを目指す。

⇒ケアごとの手洗い、訪問前後の手洗い及び手指消毒の徹底、特に身体介護時のゴーグル（眼鏡）マスク、手袋着用等で感染ゼロを目指します。

○高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実し、倫理意識を持つ。

⇒高齢者虐待、ハラスメント等の学習をし、訪問介護員としての倫理観を身につけ、意識の向上を目指す。

○内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上を目指す。

⇒アンガーマネジメントを引き続き学び、職場内環境を整える。

## 養護老人ホーム北淡荘

### 2021 年度事業所総括

2021 年度も、新型コロナウイルスの影響を受ける 1 年となりました。コロナ感染症の減少と共に、職員・入所者とも以前のように安心した生活を取り戻せそうな時期がありましたが、年末から新たにオミクロン株の発生から瞬く間に、全国各地に感染者が爆発的に増えました。北淡荘も 2022 年 2 月にコロナ陽性者が出てから、大規模クラスターに襲われ、職員・入所者とも感染拡大が止まらなくなりました。職員が自宅待機等で慢性的な人員不足、日を追うごとに感染者が増えていく一方で、北淡荘職員も疲弊していく中、他部署には応援職員を派遣して頂き、何とか現在では、2 階では新規感染者も出る事無く山を越えたように思います。過去の経験から感染対策には十分気をつけながらも、驚異的な感染力の強さに職員も翻弄されるばかりでした。2 月までは安定して稼働維持してきましたが、今回の件で大幅に稼働率の減少となった結果には残念に思います。

今回の北淡荘における大規模クラスターによる振り返りも予定しています。今後の課題・改善点など多くの意見交換を行い、この度の経験や改善策を講じ、安全・安心できる施設づくりに取り組んでいきます。

### 2022 年度への課題及び展望

2022 年度もご利用者の安全確保、安心して北淡荘で生活が継続できるよう取り組を行います。

○法人開設 30 年、施設開設 15 年の記念行事となるイベントを開催する。

○内部研修の充実、外部研修への積極的な参加を行い、介護技術向上を目指し、ケアの統一を図る。

○感染対策・感染予防の徹底、継続し、集団感染ゼロを目指す。

○事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図るため、オンラインを活用しコロナ禍でも楽しめる行事を実施し、利用者満足度を高める。

○役職者としてのマネジメント能力の向上を目指し、主任・副主任の資質向上・育成教育に取り組む。

○職場内環境の向上を行い、内部コミュニケーションの活性化を図り、職員の定着率の向上を目指す。

○災害 BCP 計画を完成させる。

○養護老人ホームの月初充足率 100%(168 名)、特定利用者の月初充足率 97% (58 名) を目指し併せて経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。

## 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

### 2021 年度事業所総括

開設から 10 年が経ち、2021 年度は

- \*新型コロナウイルス対策の継続と感染状況を踏まえた適切な運営を行う。
- \*施設（ご利用者）の情報発信の強化を行い、信頼関係の継続を図る。
- \*介護ロボットや ICT を導入し、CS・ES の向上を図る。
- \*安定的な収入の確保を図る。

を大きな目標として進めてきた。

『新型コロナウイルス対策の継続と感染状況を踏まえた適切な運営を行う』『施設（ご利用者）の情報発信の強化を行い、信頼関係の継続を図る』に関しては、兵庫県内や淡路島内、地域の感染状況や動向を把握し、その都度最善の判断を行いながらご利用者へのサービスが安心、安全な形で提供できるように努めた。ただ、施設の感染対策として面会制限や中止なども行う中でご利用者とご家族、また施設職員とご家族が関わる機会が減少したことで信頼関係や情報共有が希薄になっていくことを予防するために施設からの情報提供として行事や取り組みの様子を「LINE」や「HP」に掲載し、行事等の写真を毎月家族に送付しご利用者の状況等を伝えた。

『介護ロボットや ICT を導入し、CS・ES の向上を図る』に関しては、インカムシステムを導入し、部署内外とあらゆる場所、リアルタイムで連携や情報共有が行え、利用者対応の際には利用者の傍を離れずに応援や協力も要請でき、事故防止や早期発見等にも繋がっている。

『安定的な収入の確保を図る』については 4 月から 10 月までは長期入居者の入院もありながら、入院者の空床利用を短期入所利用者に繋げて稼働は維持できていたが、11 月頃より短期入所利用者のコロナ感染拡大等の影響により利用控えや中止、また体調不良等により入院も目立ち、長期入居者の入院も重なったことで稼働率の低下に繋がった。また、入院先でコロナ感染予防対策として PCR 検査や病室隔離などの対応が都度行われており入院日数自体が以前に比べ長期化した。そのような状況の中で経費の節約や節減を図り、無駄な支出を減らすように努めた。

### 2022 年度への課題及び展望

2021 年度に関しては、2020 年度と同様にコロナ感染リスクと隣り合わせの 1 年であったが、その中でも利用者が安心、安全に過ごすことができ、また日常の中にも非日常を感じる事が出来るように外出や買い物、一時的ではあったがご家族との面会の機会も設けることができた。今後も利用者、家族、職員共に感染予防を第一に考えたサービスや業務の見直し、改善を図りながら常に安心、安全なサービスの提供と地域や関係機関からも信頼、信用される施設運営が出来るよう努めて行きたい。更には「ご利用者の生活がサービスの中で完結することなく、家族や知人・友人・地域住民との関係性の継続を図り、人と人が世代を超えた繋がりあるもの」となれるよう取り組んでいきたい。

## 千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

### 2021 年度事業所総括

2021 年度は、結果として実績を上げることができなかつたが、コロナ過での緊急事態宣言・蔓延防止等自粛のあおりがある中、新規ご利用者が年間 35 名、月平均 2.9 名の増員があった為、1 日平均 25.7 名と昨年度を上回る結果となっている。当初の予定では、通常規模定員 35 名、1 日の平均利用人数は 27 名と想定し、4 月～8 月頃迄は新型コロナウイルス感染拡大（ワクチン接種等）の影響もあり伸び悩んだが新規ご利用者が増えてきたこともあり 9 月より回復の兆しが見え始め、目標予算・稼働率の達成に至った。コロナ過ではあるが、三密の回避・マスク着用・換気等衛生環境を強化しながらも、楽しさはそのままで安全に過ごして頂けるように日々努めたが、2 月にご利用者より 2 名の感染者・続いて 4 名職員が感染者となり 2 月 4 日より 16 日迄臨時休業することとなった。事業所としては感染拡大を食い止めることができ 17 日より再開することができた。その後も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、当施設で感染者が出たことにより継続的に休まれる方や、家族の方が感染した・濃厚接触者となった等で休まれる方もあり稼働率は低迷し予算を大きく下回る結果となった。

職員体制については 1 名異動・2 名退職となり、現在は 2 名の減員となっている。新入職員を迎えるにあたり、教育環境についても、都度、見直しを図り、職員間での連携・協力体制を整え、未経験の方も働きやすい職場作りに取り組んでいる。今年度は、2 名の職員が介護実務者研修を受講し、更に介護福祉士を目指して意欲的に勤めている。

サービス面では、利用自粛者やご家族への手紙や電話等の定期的な関わり、入院中の方にはご家族に連絡し、情報交換等を定期的に行い、継続的な繋がりを大切にしている。コロナ禍による感染対策については、パーテーションの設置や、三密の回避、定期的な喚起やマスクの着用・手指消毒等を徹底し、アクティビティの規模、内容を考慮して実践している。又、サービス向上の取り組みとして、ご家族の要望を電話や連絡帳等で交換し、個別サービスも実施しご家族の負担削減に努めている。

継続している歩こう会では、参加率 100% を目指し職員と一緒に楽しく歩く！を実践。より一層のやりがいと、意欲の向上に繋がるよう達成記念品等も準備し取り組んでいる。また、2021 年度は、Zoom を活用し各部署や事業所と繋がってゲーム大会を行い新しい形の楽しみができた。Zoom 等については、まだまだ、活用法はあると思うので提案し実践していきたい。外部への発信には、毎月発行の会報誌（一期一会）や、広報誌・SNS の活用、新聞社への取材依頼を行い、事業所のことを多くの方に理解していただけるよう継続して取り組んでいる。コロナ禍の中でも、楽しく健康的に過ごしていけるデイサービスの取り組みを今後も発信していきたい。

### 2022 年度への課題及び展望

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症より大きな打撃を受けた 1 年だった。

今後の課題は、

- 1：感染症や地震等の災害も含め BCP を策定し、緊急時に備える準備をする。
- 2：感染症予防対策を徹底しながらも、デイサービスとしての役割が実践できるように計画していく。
- 3：資格取得をサポートし、気持ちよく・楽しく働くことができる職場作り。

受け入れ態勢を柔軟に、地域の介護サロンとして活用できるスペースも導入しご利用者の需要にお応えできる体制も取り入れていきたい。

## 小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

<b>2021 年度事業所総括</b>
<p>2021 年度は、介護保険制度の改定があり基本報酬が改定となり、加算の算定要件が変更になったものもありましたが、2020 年度と同様の加算要件となりました。2021 年 4 月に管理者・計画作成担当者の異動がありましたが、ご利用者・ご家族、関係機関との信頼関係の構築とスムーズな連携による稼働率の安定に取り組みました。そのような状況下でも 2021 年度は相談ケースが多くあり、新規登録者は 12 名、年間を通しての月平均登録者数は 27.7 名となり、当初予算を上回ることが出来ました。また、新規相談者の受け入れに関して、入院者の登録利用枠を使用した受け入れを行う事により、可能な範囲で多くの方に利用してもらえよう調整を行いました。小規模多機能の特性から、ご利用者のニーズに応じた柔軟な対応が必要となりますので、日々の申し送りや会議体の中では、状態変化を共有し各職員からの意見を聴取し、ご利用者ひとり一人に応じたケアを提供出来るように取り組みました。認知症ケアに関しては、個別の取組に関して定期的な評価を行うことで、状態変化の把握にも繋げていきました。</p> <p>防災に関しては、コロナ禍により施設全体での避難訓練は実施出来ませんでした。部署内での避難誘導や初期消火への対応を共有し災害時に備えました。独居のご利用者については、地震や台風時には電話連絡や訪問により安否確認を行い、必要に応じて通いや泊りを追加しながら対応しています。災害時であっても、職員の出勤状況に応じてご利用者へのサービスが続ける事が出来るよう、事業継続計画【BCP】を策定していきたいと思っております。</p> <p>感染対策については、新型コロナウイルスの感染拡大により、関係者の中に陽性者や濃厚接触者となったケースもありましたが、ご利用者の中で陽性者は出ませんでした。感染対策を継続していく中で、外出や外食行事は実施出来ませんでした。事業所内での行事を充実させることで、ご利用者の皆様に季節を感じながら楽しく過ごしていただくことが出来たと思っております。</p> <p>また、事業所内への面会等の制限により、SNS を通じて行事や事業所内の様子を情報発信することで、ご家族や地域の方にも事業所を身近に感じていただけるよう取り組んでいます。</p>
<b>2022 年度への課題及び展望</b>
<p>2022 年度も、新型コロナウイルスへの感染対策は継続となりますが、2 年間で学んだことを活かして、コロナ禍の中で出来ることを考え、ご利用者へのサービスの向上に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>また、職場環境に関しては、人材不足の状況の中、業務内容の見直しや業務の効率化、ICT の導入等の検討を行い、働きやすい職場環境づくりにも繋げていきたいと思っております。</p>

## ちびっこランドちどり

<b>2021 年度事業所総括</b>
<p>今年度を通じて、マスクの装着・手洗い・消毒・換気に努め、保護者へも感染予防の注意喚起等のご協力をお願いし、感染症への予防徹底を行う一年でした。近隣保育所では、園児や職員のコロナの陽性者が発生したため、兄弟関係で関係のある家庭の園児の自粛や、一時預かり事業の一部利用の中止を行い、感染対策を講じました。</p> <p>保育の面では、子ども一人ひとりの姿を理解して丁寧に関わり、その思いに寄り添って安心して過ごせるための保育が出来るよう、意識の統一を図り職員間で情報共有に務めました。様々な経験を通して、子ども主体の保育実践に努め、視野を広く持ち個々の気付きや発信を増やし保育計画を取り組むことが出来ました。</p> <p>保護者に対する支援では、子育ての悩みに共感し、助言を一人ひとり向き合うようにしました。また、コロナ禍において難しい状況の中、SNS を活用し行事の公開等、模索しながら子どもたちの成長を届けることに務めました。</p> <p>コロナ禍において、日々大きな混乱もなく子どもたちが安心して園生活を送れたことは喜ばしいです。また、食育を通して様々な角度から、食の大切さや楽しさを伝えることも出来、コロナ対策に追われる一年でしたが、保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで一人の感染者が出ることなく、また大きな事故や怪我もなく、無事に一年を終えることが出来ました。まだまだコロナ対策が続き、ご迷惑やご不便をおかけすると思っておりますが、より良い保育・教育を目指していきたいと思っております。</p>
<b>2022 年度への課題及び展望</b>
<p>令和 2 年 4 月 1 日に新施設をオープンし、あっという間に二年が経ちました。淡路市へ島外からの移住者が増えたことにより、一つひとつ家庭によって様々なニーズがあり、保護者の思いにどれだけ寄り添えるか今後の保育者に求められてくると思われれます。コロナのこともありますが、小規模保育のメリットを活かし、保護者に対する支援（地域の子育て支援への対応）を行政と連絡を密に行い、可能な限り努めていきます。また、新施設開設に向けてこれまでの経験を活かし、より良い施設を作り上げていきたいと思っております。</p>

## グループホームしおさい

<b>2021 年度事業所総括</b>
<p>2021 年度も全国的な新型コロナウイルス感染症の蔓延が続き、事業所運営、ご利用者の生活において、常に感染予防対策を念頭に置きながらの日々が続きました。利用者と家族、事業所と地域との関係性を閉ざさないよう、地域の感染状況に応じて、面会や交流の在り方を緊張と緩和を繰り返し柔軟な対応が求められました。ただコロナ禍のなかでも、新たな形としてオンラインを使用したこども園やボランティア団体との交流の機会も設けることができました。形が変わっても利用者の笑顔は変わらず、現状下に合わせた様々な工夫や取り組みを見出す大切さをあらためて感じた次第です。</p> <p>また 2021 度の大きな取り組みとして、事業所のケアマネジメント体制を整え、居住サービスに加えた在宅サービスの展開にも重点をおいてきました。看護師を配置し、各かかりつけ医療機関や薬剤師等と医療連携体制を構築。利用者の体調維持につながり、また各機関・専門職との連携により、健康管理面での事業所力の向上が図れています。また旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症対応の専門</p>

的なサービスとして、地域の社会資源として機能するべく、緊急的な利用を含めたショートステイの開設を4月より2階ユニットで行いました。1階ユニットも主たる職員の認知症実践者リーダー研修の資格取得ののち、10月より開設しています。緊急ショートも居宅介護支援事業所ケアマネージャーと連携のもと、自宅より出て帰宅できなくなった利用者の受け入れなども行い、また急な家業に合わせて柔軟な利用にも対応しています。

コロナ禍のなか、大きく事業所体制を変え、理念である家庭的でかつ、専門的な認知症ケアを地域に還元できた1年であったと自負しています。結果として、事業所運営においては大幅な収支の改善が図れました。安定した事業所運営のもと、職員の心身の充実を図り、引き続きよりよい認知症専門のサービスが提供できるよう努めていきます。

#### 2022年度への課題及び展望

2021年度に引き続き、法人理念、事業所理念に沿い、地域圏域におけるただ一つの認知症対応型サービスの専門性に特化したサービスを目指します。ショートステイの開設、認知症デイサービスの再開も含め、入居在宅サービスとも地域に欠かせない社会資源として機能していきます。選ばれるサービスの結果として、安定した事業運営につなげていきます。

### しおさいデイサービスセンター

#### 2021年度事業所総括

2020年度当初より、新型コロナウイルス感染拡大状況に伴い共用型であり入居者とともに過ごすデイサービスについては、積極的な受け入れが行えない状況でした。地域からは認知症対応に特化したデイサービスへの期待も強く、2021年度は、職員体制の充実と兼務要件の緩和等もあり、稼働体制を整えて本格的な再開を行いました。旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症対応の専門的なサービスとして、地域の社会資源として機能するべく、8月より認知症対応型デイサービスを再開。圏域で土日営業の通所サービスがなく、その受け皿となるべく土日の営業を行っています。入居者と生活を共にする共用型デイとして感染予防に十分留意しながら、1日あたり1～3名程度の利用者を受け入れ。時間も夕食後の送りを含み、ニーズに応じて柔軟な対応を行っています。

#### 2022年度への課題及び展望

認知症対応型通所サービスを提供する事により、旧一宮町圏域を中心とした認知症高齢者、家族への支援を行い、地域の資源としての役割と責務を果たしていきます。営業日は引き続き土日営業を行い、利用時間は9:50～17:00までを中心としてサービスを実施。ニーズに応じて夕食後の送りなど柔軟な支援を継続していきます。利用者の自宅での生活維持と家族においては介護負担軽減を図ります。サービスを利用する事で、利用者の社会参加を実現し、家族を含めた在宅生活の継続を支援し、自宅での孤立化の防止に努めます。

### 小規模多機能型居宅介護事業所 むくもり

#### 2021年度事業所総括

事業運営では、平均登録者は、20.8人から20.3名となりましたが、1月から3月にかけて要介護度4のご利用者3名が登録解除となり、また、新規登録者数が少なかったことが収入面での減少の要因となりました。3月末現在の登録者は18人。新規登録者は4名、登録解除者は6名。登録解除後の要因としては入院、他の法人の施設へ入居、死去となっています。新型コロナ感染流行が2年となりましたが、日々の感染予防の徹底に努めました。2021年度もご利用者、ご家族、職員の感染者は0名でした。

日常のサービス提供では、①デイサービスでは夕食後の送り、②仕事を持っているご家族の時間に合わせた利用時の対応、③随時の泊り、④定期受診の同行支援、⑤コロナワクチン接種支援など、むくもりとしてできる限りの柔軟な対応を行ってきました。

#### 2022年度への課題及び展望

今年度は、新施設への移転となる為、準備を行っていきます。移転後は、居宅介護事業所や、保育園との連携にも努めていきたいと考えます。移転後も小規模多機能の特性を活かしながらかご利用者支援に努めていきます。ご利用者、ご家族頃の状況、ニーズに応じたできる限りの柔軟な対応を行っていきます。新型コロナ感染症流行は、ウィズコロナとなるものと予想されますが、私たち職員は、感染予防を徹底しながら、安全な事業運営を続けていけるよう努めます。2020年度からコロナ感染の影響でできない事も多くありましたが、外出行事、ドライブなど、都度のコロナ流行状況を観ながらできる範囲で行っていければと考えています。むくもりを利用する事で楽しみを持てるように努めていきます。職員に於いては人材不足の中での貴重な職員として働きやすい職場環境となるよう努めていきます。

### 佐野デイサービスセンター

#### 2021年度事業所総括

今年度もコロナ禍の中で、利用を自粛された方、体調不良で休まれた方、特定も2月3月とご利用者が休まれた。それでも去年度と比べると利用者数は多かった。新年度も引き続き、多くのご利用者が利用していただけるように職員一同努力していきます。大きなアクシデントもなく1年過ごせたのも、職員の対応が良かったと思います。こちらも引き続き、アクシデントなく過ごせるように対応していきます。1年間、教育訓練を毎月行い、職員の質の向上に努めることが出来ました。

#### 2022年度への課題及び展望

- 1.品質保証委員会を開催し、サービスの質の向上を図る。
- 1-2.法人開設30周年を記念したイベントを法人内で取り組んでいきます。
- 2.SNS・広報誌を活用し、社会に情報発信を行います。
- 3.職員の声を聴き、柔軟な対応をとり、働きやすい環境づくりを行います。

## 千鳥会福祉用具貸与事業所

### 2021 年度総括

福祉用具とは、車いすや手すりなど、高齢者や障害者の自立をサポートし、介護する方の負担を軽減する用具を指します。福祉用具貸与事業は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、指定を受けた事業者が、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な福祉用具を選ぶための援助や取り付け、調整を行い福祉用具を貸与する。

### ※ 年間集計（月別）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
前月数	11	10	9	9	10	8	8	10	9	9	9	8	110
新規	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	6
終了	1	2	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	9
計	10	9	9	10	8	8	10	9	9	9	8	8	107